



鶏 鳴

〒221-0864

横浜市神奈川区菅田町2851

(電話 045-473-7191)

パウロの言葉

「雄々しく強く生きなさい。何事も愛をもって行いなさい」

聖書(第1コリント書16章13~14節)

牧師 河合裕志

前の「口語訳聖書」では「雄々しく」を「男らしく」と訳していた。「雄々しく」も男性の理想的な姿を言っているように思われるけれど、それでも「男らしく」としなかったのには工夫が感じられるというもの。「男らしく」と言ってしまおうと世の男だけが考えられてしまう。

パウロはこの手紙をコリント教会の男達だけを対象として書いたわけではないだろう。そこには女性も少くない。パウロとしては男も女も雄々しく強く生きて行ってほしい、難題、課題に立ち向かってほしいと願っていたに違いない。

かつて神はヨシュアにこう言っていた。「わたしはモーセと共にいたように、あなたと共にいる。あなたを見放すことも、見捨てることもない。強く、雄々しくあれ」(ヨシュア記1章5~6節)。ヨシュアはモーセの後継者となった人。

先日テレビで『十戒』をやっていたので見た。もう何回見たことだろう。見るたびに感動を感じる。その最後のシーンはモーセがそれまで着ていた衣を脱いで、ひざまずいているヨシュアに着せるところ。印象深いバトンタッチ。これからはヨシュアがこの民を引き連れて行くことになる。彼はどんなにか身の引き締まる思いであったか。

そんなヨシュアは神の言葉に頼る他なかったろう。「強く、雄々しくあれ。わたしはモーセと共にいたようにあなたと共にいるから」。彼はこの言葉を信じて立ち上がり、重い責任を引受け、ヨルダン川を渡って行くことになる。

今パウロが「雄々しく強く生きなさい」と言う場合も何の前提もなしに、ただ言っているというのではないだろう。次のイエスの言葉が覚えられていたのでは。「あなたがたには世で苦難がある。しかし、勇気を出しなさい。わたしは既に世に勝っている」(ヨハネ16章33節)。「わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいる」(マタイ28章20節)。

このイエスは私パウロと共にいてくれたので絶望的場面に幾度遭遇しても最終的にへこたれずに強く生きられた。私の力ではなくイエスのお陰。みんなもそうあってほしい。イエスは死んだけれど復活して今も生きて共にいてくれる。だから恐れることはない。次々とふりかかって来る難題、課題になお前向きに取り組んで行ってほしい。この「コロナ」に対しても。

集会案内

日曜礼拝：午前10時15分、日曜夕拝：午後6時

子どもの教会：日曜日午前9時

中高青年会：日曜日礼拝後

聖書を学び祈る会：水曜日午前6時、午前10時、午後7時

お話し会、(面談)：水曜日午後1時~7時